

第36回 横浜みどりアップ計画市民推進会議 会議録	
日 時	令和4年6月15日（水）午前10時から12時15分まで
開 催 場 所	市庁舎18階 共用会議室みなと1・2・3
出 席 者	網代委員、池島委員、池邊委員、今関委員、岩本委員、内海副座長、奥井委員、小野委員、国吉委員、進士座長、高田委員、高橋委員、野渡委員、村松委員、望月委員（五十音順）
欠 席 者	石原委員
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 横浜みどりアップ計画3か年の進捗状況について 2 横浜みどりアップ計画市民推進会議2021年度報告書骨子案について 3 その他
議 事	<p>（事務局）</p> <p>それでは、第36回横浜みどりアップ計画市民推進会議を開催させていただきます。感染症対策として座席の間隔を広めに取っています。委員にはマスク着用をお願いします。あわせて、マイクの受け渡しをする際には職員がマイクをアルコール消毒するという対策をとらせていただきますので御了承いただきますようお願いいたします。</p> <p>まず、本日の会議について、御報告申し上げます。本会議ですが、横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱第5条2項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件となっておりますが、本日、委員定数16名のところ、15名の御出席をいただいておりますので、会議は成立することを御報告いたします。</p> <p>なお、今回の会議より委員の交代がありました。横浜農業協同組合の川幡様から小野様に委員交代となっておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>本会議ですが、同要綱8条により公開となっており、会議室内に傍聴席と記者席を設けています。また、本日の会議録につきましても公開とさせていただきます。委員の皆様には、事前に御了承いただきたいと思っております。</p> <p>なお、会議録には、個々の発言した氏名を記載いたしますので、併せて御了承ください。さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページ及び広報誌等へ掲載させていただくことも、併せて御了承願います。</p> <p>次に、事前に送付させていただきました資料の御確認をお願いします。</p> <p>次第、資料1「横浜みどりアップ計画市民推進会議2021年度報告書骨子案」、資料2「横浜みどりアップ計画市民推進会議2021年度スケジュール」、別紙1「横浜みどりアップ計画[2019-2023]2021年度事業目標及び進捗状況」です。参考資料として、みどりアップ計画の冊子、年度別の実績の概要版、年度別の市民</p>

	<p>推進会議報告書を綴じたフラットファイルを置かせていただいております。</p> <p>議題に入る前に、事務局側の出席者を御紹介させていただきます。</p> <p>(事務局参加者紹介)</p>
(事務局)	<p>それでは、議題に入る前にみどりアップ推進部長の山本より挨拶をさせていただきます。</p>
(事務局)	<p>本日は、横浜みどりアップ計画市民推進会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃より本市の環境行政の推進に関しまして、御協力いただき心より感謝申し上げます。</p> <p>2009年度にスタートした3期目の横浜みどりアップ計画は今年度で4年目となりました。これまでの取組は、横浜のかけがえのない緑を将来に引き継ぐことにつながっており、この取組を多くの市民の皆様へ引き続き御理解いただくことが、大切なことだと考えております。</p> <p>5年後の2027年には横浜市で国際園芸博覧会が開催されます。花と緑があふれる豊かな社会を多くの皆様が参画して実現していくために、横浜みどりアップ計画の各事業や「ガーデンネックレス横浜」にしっかりと取り組んでまいります。</p> <p>さて、本日は、みどりアップ計画の進捗状況を御報告させていただきます。3期目のみどりアップ計画は5か年目の折り返しを過ぎ、今後、3か年分の取組を振り返り、その成果や課題などをまとめていきます。</p> <p>是非、忌憚のない御意見や、積極的な御議論をいただき、みどりアップ計画の各事業の改善、市民の皆様への情報提供の拡充などにつなげていきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>事務局からは以上になります。このあとの進行につきましては、進士座長にお願いしたいと思います。進士座長、よろしくお願いいたします。</p>
(進士座長)	<p>皆さんおはようございます。今、話があったとおりです。緑の基本計画を法的に作るようになって、それが更にみどりアップ計画となり、緑をもっと増量する、内容を充実するということにつながっています。</p> <p>「みどりアップ」という言葉は全国にありません。横浜が言い始めた言葉です。今まで緑に縁がない税の専門家がみどり税を制度化してくれました。もちろん、議会からも色々な御意見もありましたので、十分納得できる形で行うということになっています。その中にこの市民推進会議というのがあります。簡単に言</p>

うと、税金を使うのなら、しっかりした使い方が大事だということです。一般的にはオンブズマンのように批判的に見るような、側面もなくはないですが、みどり税が的確に使われているかどうかを皆さんの目でチェックしてもらうことが基本的な機能でした。

ただ、私はそういうやり方は日本的でないと思います。せっかく税金を出してもらったら喜んで出してもらおうと。ですから、私は楽しい市民推進会議にしたいと思いました。監視するだけではなくて、活動の中身を聞いて十分に納得できるかどうかということです。納得できないことは色々な提案をしてもらい、むしろ「来年以降もっとこういうことをやったらいいのではないか」と積極的に意見をもらいます。

それから、これまでのみどりアップ計画の途中で「広報が足りない」という意見が出たため、広報部会をしっかり独立させて、皆さんが直接つくるということで、今も広報部会の皆さんが頑張ってくれています。

このように、市民が主体的に取り組める緑行政、緑政策、緑運動にしたいと思ってやってきたわけです。横浜のまちづくりは環境先進都市として、非常にトータルにやろうとしています。緑化フェアでは600万人の方が来場してくれました。これは相当、スタッフが頑張ってくれました。

みなとみらい21は今までの横浜の代名詞であり、アーバンデザインです。これはもちろん、全国に影響を与えました。

でも、私はこれだけでは駄目だと思っています。やはり横浜はすごくバックヤードが広く、関内が中心ではありません。広大です。非常に豊かな森もあれば農村もあるし、歴史もあります。本当はそれらを一体的にとらえることが緑のまちづくりです。

それで緑化フェアも都心だけ、山下公園周辺だけではなく、里山ガーデンでも行って大成功でした。市長もそれ以降頑張って、ついに世界のEXPOをやろうということで国際園芸博覧会です。

そのようにして着々と横浜の緑は発展してきました。あとは最後に魂を入れるということだと思えます。今日はそういうレベルでの会合です。

コロナの中で最も重要なのは緑地、オープンスペースだというのはお分かりいただけるでしょう。横浜はそういうことも豊かな大都市です。ハードの格好いい建物も大事ですが、一方で豊かな環境があってこそその横浜ということのみどりアップ計画やみどり税は目標にしています。都心から郊外の森まで、これから御説明いただきます。

議題に入りたいと思います。議題1について事務局から御説明をお願いいたします。

(事務局説明)

	<p>(進士座長) 御説明ありがとうございました。委員の皆さんの積極的な提案も含めて、まず質問などあれば自由に発言してもらいたいと思います。では、高田さんからお願いします。それぞれ部会に入っているので、ご自分の部会の関係でより強調したいことがあればそれも言ってください。ほかの部会についても当然、自由ですから、何でも言ってください。</p>
	<p>(高田委員) 色々報告ありがとうございました。非常に分かりやすい説明だったと思います。みどりアップ計画というのは、緑を増やすということだと思います。今まで色々支援していただいたり、そこに税を投入して維持なりして、これまでつくられたものと維持されているもの、さらに、税投入によって増えていくことだと思います。その辺の数値がどんなところに表れているのか、客観的にどこを見ていけばいいのか、市民として分かりやすいものが何かあるといいと思いました。</p> <p>コロナなどで色々活動ができなかった部分がありますが、かなり色々ところで工夫して実施されたという話を聞き、心強く思いました。少しずつ回復した中で、できなかったところをどうやってまた増やしていけるのかも伺いたいです。</p>
	<p>(進士座長) 最初に「みどりアップ」と言うと、「量を増やす」という発言がありました。皆さんそう思っているかもしれません。公害など灰色の時代があり、都市問題がありました。だから、最初に緑を増やす話があったのです。</p> <p>だけど、今回の説明を聞くと、既にあるものを手入れし、保全しないといけません。植物は生き物ですから。緑との関係は量と質と両方あります。その質の中に高田さんなどの活動や市民推進会議など緑の取組を「活性化」する取組があります。</p> <p>みどりアップというと量の話のようですが、それは緑被率とか昔から指標化していました。それは今だってやろうと思えばすぐやれるし、集計しています。そういう「何パーセント増えた」というものもありますが、都市開発で逆に減っていることも実際あります。ですから、量で図るだけではなく、質として市民の活性化や市民とふれあえる時間がどうだったのかという指標があります。</p> <p>今日の説明も幼稚園とか、すごく多かったですでしょう。小さな子を預かっている幼稚園の先生も、緑にもすごく強い関心を持っています。園庭なんていうのはもっと増やしてあげるべきです。義務教育ももう少ししっかりやってもらいたいとか、そういう話が盛り上がって行って全体として緑の先進都市になります。量と質と両方話があって、こういう市民推進会議でこれだけ色々なことを発言していただける人がたくさん増えただけでも、本当は100点満点以上だと思って</p>

	<p>います。</p> <p>(高橋委員) 事務局の報告にもありましたが、最近、近所の公園の花壇にみどりアップ計画のPRプレートがあるのに気がつきました。このプレートは、公園愛護会の活動をサポートする意味合いもあると思います。プレートには、みどりアップ計画のロゴやキャラクターの「葉っぱー」が描かれていました。メッセージとしては、「公園愛護会で花を育てています。大切に见守ってください」というようなものです。下段には「2027年に国際園芸博を横浜で開催します」というPRメッセージもありました。</p> <p>私がすごくいいと思ったのは、二次元バーコードです。スマホで読み込んでみたら市のHPにある公園愛護会のトップページが表示されました。こういう取組は素晴らしいと思います。名木・古木などでもできるだけ歩道から見えるところにPRプレートを設置してもらいたいし、みどりアップ計画がかかわる農園などにはもっと大きなPRプレートでもいいと思います。多くの市民の目に触れることが大事です。みどりアップ計画の取組やみどり税について知ってもらう機会にもなると思うので、二次元バーコード付きプレートを増やしてもらいたいです。</p> <p>(進士座長) 横浜市は、日本でも最高に愛護会の取組が進んでいます。昔は市長が毎回表彰に出ていましたが、今も出ていますか。</p> <p>(事務局) 市内には約2,700公園があり、公園愛護会は約2,500団体あります。ほとんどの公園にあると言っていいと思います。表彰は、毎年1回全体で集まってやりましたが、コロナの影響で、今は区ごとに行う状況が続いています。本当に熱心に活動してもらっていて、報告にありましたように約1,300団体がミックス球根花壇の活動に協力してくれました。</p> <p>指摘がありましたように色々なツールを使うことで皆さんに見てもらうことも大事ですが、何と云っても現地で見てもらうのが一番、実感につながる場所もあります。こういったことに力を入れて今後も取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>(進士座長) 日本の中でも横浜市の公園愛護会は本当にすごいです。本当は、地元の人がみんな公園愛護会に入ってほしいくらいです。公園デビューの親も、利用するだけでなく、一緒に参加すると面白くなるでしょう。多世代交流もあります。</p> <p>高橋さんが言ったように、二次元バーコードはすごくいいですね。</p> <p>公園愛護会も昔は自治会が中心でした。新住民が愛護会にちょっと入れるように工夫することも、やはり</p>
--	--

	<p>活性化です。市民が生き生きと生きるまちにするのが緑の仕事です。では、次に行きましょう。</p> <p>(野渡委員) 私は農業委員会に入って、月1回農地パトロールを行い転用農地や遊休農地の確認をしています。農地マッチングシステムがあることが分かり、希望者がいれば何とか農業が継続できるのではないかと考えています。この会議に参加することでみどりアップ計画を支援しているマークに随分気がつくようになりました。</p> <p>(進士座長) 何とか承認水田という名前がありましたね。</p> <p>(事務局) 水田保全奨励事業です。</p> <p>(進士座長) いかにも農政のセンスの名前です。横浜市は「市民の森」とか、ずっと分かりやすくやってきたのだから、農政ももう少しセンスアップしたほうがいいのではないですか。台帳上は「水田保全奨励事業承認水田」でいいですが、「市民の田んぼ」と言ったほうが子供も学校の先生も喜ぶます。体験農園や学校農園型にして田んぼを使うとか、そういうふうに広がると、農政が本当に市民のものになります。今までは、農家のための農政だと思っていました。農家の数は非常に少ないので、市民の中では少数派です。もっと大多数の市民とつながらないと、農政は駄目ですよ。</p> <p>(村松委員) 私も農業の部会にいます。「農とふれあう場づくり」の中で、市民農園開設はとても大事だと思いますが、ちまちまと区画された農業は農業の一部でしかないと思います。やはり農家の農地を丸ごと市民が手伝えるような制度をつくっていただけたらと思います。農家には本当に知恵があるし、農業は土地ごとに違います。細かく区画し、買ってきた肥料や水道水でやるのは農業と言えるかどうかと思います。農家は古くから環境と共生した暮らしをしていますし、地域の文化も守っています。そういうところを市民が手伝えるような部分があるといいです。私が所属している市民の農業ボランティア団体では、休耕田の本当に荒れたところの開墾を任せられました。大変な労力をかけて無事開墾し、今、キュウリやナスが成っています。だから、そういうところをみどりアップ計画で支援できる、市民団体が農地を丸ごと手伝えるような仕組みもあるといいです。妙蓮寺で「開墾した」というニュースが港北区、神奈川区のタウンニュースには出ていると思います。記事をお持ちしたので回覧します。</p>
--	---

	<p>(進士座長) ちゃんと制度化された体験農園があるでしょう。農家が指導して市民が参加して体験するもので、それでいいわけです。都市農地のほうは、農水省がぐんぐん頑張りに出して、何でもやれるように近づきました。そういうのを少しアピールしたほうがいいです。</p>
	<p>(事務局) ありがとうございます。横浜はおそらく、全国でも市民農園の種類や数が多いと思っています。市民農園は、法律に則ってやらなければなりません。その合間をいかに整合性を取りながら、違法にならないようにするか、色々編み出しながら進めてきたところがあります。区画を仕切ったものが一般的な市民農園ですが、農家が営農している前提で、農家の指導の下、栽培や収穫体験を行える事業など、色々な種類があります。</p> <p>できるなら丸ごと農地を借りて進められるのであれば一番いいですが、農水省にも確認していますが、まだそこまでには至っていません。我々もニーズは重々把握しています。土をいじらなくても、収穫体験農園で摘み取りでもいいという人も中にはいます。農園付公園も含め、今後ともあらゆるタイプの農園を拡充していきたいと考えています。</p> <p>コロナ禍で市民農園に対するニーズはものすごく高まっています。その期待に応えられるように、しっかり力を入れて取り組んでいきたいと思えます。</p>
	<p>(進士座長) 本会議の部会では、農業関係の代表とか、こういう設定は役所の常ではないです。縦割ですから。だけど、実際にやっていることは公園部門で農園付きです。私は昔、「公園は本当は何でも使えるはずなのに、わざわざ『農園付』と言わなければならないのか」と、言いました。農業は農政だと思っているから、公園の部門は遠慮して「農園付公園」と呼んでいるのです。</p> <p>農政は農業や農家を中心なので、「市民にも少し使わせませう」とか、「使ってもらおうようにして一緒になってやります」ということです。</p> <p>今の都会人はむしろ、農業応援団そのものだし、自分が体験したいのです。先ほどの開墾も当たり前なのです。</p> <p>ただ、行政は農地法が頭にいつもあります。農地法はちょっと堅い法律ですが、今や農水省も国交省も、市民の農業体験というのは当然になっています。</p> <p>アーバンライフとかライフスタイルというのみなとみらい 21 だと思うでしょう。市庁舎で直売所もやっているでしょう。食べる場所からつくることまでずっと交流して一体になってきているでしょう。</p> <p>私は、環境先進都市というのは場所で分けたり、管轄で分けるものではないと思えます。ただ、行政組織は国のラインで組織建てされています。これからはそ</p>

	<p>ういう姿勢では駄目だと思います。</p> <p>少しシームレスな政策が必要だと思いますが、法律は崩せません。その難しさを今、部長は言いました。間を取ってやると言っているわけです。でも、大元の問題は皆さん共通だと思います。</p>
(村松委員)	<p>もう1つ、昨年の広報部会の取組で、大学生向けに森づくり体験ボランティアをしたらボランティアを行った証明となるカードを広報部会で検討し、作りました。それを報告書に載せてもらえたらと思います。</p>
(事務局)	<p>カードを配付すると、取り組んだ感があり、改めて証明されるということで、好評だと聞いています。報告書にどういう形で載せるかについては今後部会で改めてしっかり議論したいと思っています。</p> <p>今日は、市の事業としてやっていることの紹介でしたので、部会で取り組んでいることについては、部会の報告書に記載していくということで整理していきたいと考えています。</p>
(進士座長)	<p>望月先生どうぞ。</p>
(望月委員)	<p>いつものことですが、森を維持していくときに、買取りを担当している職員の皆さんに感謝するばかりです。けっこう大変な作業です。実質的に目標を設定して、相続も含めた形で買取りをするのは、プライバシーの問題もあったりして、非常に大変な作業です。担当がいれば、是非声を聞きたいです。</p>
(事務局)	<p>樹林地を持つ人にとっては、そこは先祖伝来の土地です。やはり森を森として残していきたいという意思の中で市に御協力いただいている方が多いです。我々としてなるべくその意を汲んで、できるだけという形で日夜取り組んでいます。</p>
(望月委員)	<p>横浜市は林業対象の土地がありません。森林環境譲与税が行われましたが、それに対する税金の配分がありません。</p> <p>ところが、人口割合に応じて木材を利用する分については、横浜市は配分があったということですが、正直言って、全国のほとんどで使われていません。</p> <p>山梨の場合は山だらけで、地元の人が手を出しません。なぜかという市場に乗せてしまうと、支出の方が多いため、木材にして売ったら赤字が増えてしまい、森林のたくさんあるところは、考えることすら馬鹿馬鹿しいのです。</p> <p>それに対し、横浜は緑を残すということで、森を維持・管理していく人の育成から始まり、楽しむ機会を用意し、なおかつそれを実感するように市民に対してサービスを提供しています。しかも、それを広報して</p>

	<p>います。このモデルは、山をたくさん持っている都道府県の皆さんにもっともっと開いていったらいいのではと思います。</p> <p>横浜で森を維持していくといっても、実際は儲かりません。にもかかわらず、これだけ行政がきちんとやって市民サービスにつながっています。「市場に乗らないと林業は進まない」という話を色々なところで聞きます。県庁所在地をはじめ、それぞれの都市の行政の皆さんが、いい環境を維持することを忘れていません。「林業として市場流通に乗らないから行政が森を守らなくていいという話にはならない」ということを、是非伝えていってほしいです。</p> <p>(進士座長)</p> <p>簡単に言うと、森林環境税は林野庁が考えています。林野庁は戦前の山の時代の考え方がずっとあります。林業県でないと駄目なのです。それでも全然使われていません。</p> <p>緑や森が大事だというのは日本の国民感覚になっているわけです。だから、税金を取りやすいのです。横浜はみどり税を導入して、本気で現実化しています。具体的な政策や、今日出ているメニューはすごいでしょう。何でもやれそうです。</p> <p>今、望月先生が言ったのは、ここの話を林野庁に提案して、もっとうまくやれということです。税金が本当に有効に生きるようにすべきということです。木造が今盛んで、木造で20階、30階まで建てられるのですから。これはカーボンニュートラルにもなります。ウッディな感覚だと、子供も非常に情緒豊かになるでしょう。ストレスがなくなるでしょう。そういうのを本気でやるのです。</p> <p>ただ、山梨や福井は緑がありすぎます。だから、横浜が進むことは当然です。緑地保全は林務ではないから、その辺が難しいです。林務は農政部ですか。</p> <p>(事務局)</p> <p>林業としてやっている樹林が無いので林務は横浜市にはありません。しかし、森林法所管は環境創造局です。</p> <p>3、4年前に現在のみどりアップ計画とみどり税を継続するかしないか、税制調査会で議論していただきました。みどり税については、環境活動としての緑、市場に乗らない緑を大切にし、守りつくっていくところに使う税金です。</p> <p>横浜としては、森林環境譲与税は、子供が触れるところに木材を使っていこうということで、教育的な側面もあります。学校の建替えなどするとき木質化していくといったところに充てていこうということです。そういう区別をしてやろうということで今、進めています。</p> <p>(進士座長)</p> <p>はい。続いて奥井さん。</p>
--	--

	<p>(奥井委員)</p> <p>この資料と説明がとても分かりやすく、すごくよかったです。</p> <p>全体を通して目標と実績を比べると、数字ではほぼほぼクリアしています。5か年のうちの3か年だと、むしろハイペースな感じで取組がされていて、すごいと思いました。</p> <p>現計画は2019年度からということですが、コロナが始まった時期とかなり合致していると思います。</p> <p>「ピンチはチャンスに」ではないですが、すごくその影響は大きかったのかなと思います。リモートワークが増え、会社に行く時間がなくなった分、身の回りの緑に目を向ける機会が増えたから、森づくりや農業体験、収穫体験に興味関心を持つ人がどんどん増えてきたのかなと思います。</p> <p>個人的には、柱2の「地産地消の取組」で御紹介いただいた、はまふうどコンシェルジュに属しています。地産地消の人材の育成について、こちらのフォーラムでも先日お話ししました。人材育成にも貢献していけたらと思っています。</p> <p>先日、実績にある「ニッパツ横浜FCホームゲーム」の地産地消イベントに「アマンダリーナ」という名前で出店しました。「サッカーを見に来る方が野菜を買うかな。ドレッシングなんか買うかな。」と思っていましたが、皆さん買います。びっくりしました。すごく有り難かったです。市民が地産地消の野菜や農や緑に興味関心を抱いているのを実感しました。</p> <p>「森を育む」というところで、これからは量ではなく質が求められるのかなと思います。今年の梅雨は後半がすごく厳しいらしいです。毎年気候変動で、土砂災害や水害が頻繁に起こっていて、何も無い年は無くなってきている昨今です。土砂崩れなどないように、これから森の維持管理に関しては、災害対策に重点を置いて質を高めていってもらえたらと思います。</p> <p>(事務局)</p> <p>防災減災は建築局などで災害の対策があります。我々は公園や樹林地の所管でもあるし、毎日のように、予想を超える降雨などを聞いているので、それが当たり前ようになってきています。どうしても量の部分は限界がありますが、やはり質というところで、特に防災は、既に重要な課題になっていると思っています。</p> <p>(進士座長)</p> <p>今日皆さんに御紹介しようと思ってお持ちしました。これは『井の頭公園生き物図鑑』です。数年前に100周年記念があり、そのときに作ったものを改訂しました。生きものなので、ここで言う樹木や植物もありますが、動物も昆虫も全部あります。今、部門が森と農と緑になっていて、部会も分かれています。樹林地だとみどりアップ推進課か緑地保全推進課だと思います。でも、山林は傾斜地ですから、防災の話が出</p>
--	---

てきます。全部くっついてくるわけです。

今までは、昆虫は昆虫の図鑑、樹木は樹木図鑑、草花は「野生の草花」で、みんな分かれています。これは全部一緒です。

みどりアップ計画もみどり税も同じです。日本の行政から言うと画期的なことをやっているのです。縦割を廃して相互乗入れしたり、お互い理解し合っています。参加する人も、農業をやる人もいれば逆にそれを使わせてもらっている人もいます。農体験講座で先ほど「ダイコンの種をまく」とありましたが、料理教室は別の事業にあります。私からすると、「ダイコンの種をまいてから、最後、おでんにしなさい」ということです。市民の生活全部そうです。トータルで考えるべきです。種をまいてから育てて水やりして、料理を食べて、それが本当の環境生活です。

今まではそれを全部縦割にしていました。責任を持って行政的な仕事をするには漏れがあってははいけませんので縦割が絶対に必要になります。だけど、一方では、全体で物を考える時代にしないとはいけません。これが市民の大事な役割です。広報部会を作ったのは横串で物事を考えてもらいたいためです。

井の頭公園だけで今のような図鑑をつくっているのです。できれば横浜のみどりアップ計画全体でこういうものがあるといいです。続いて、小野さん。

(小野委員)

J Aの代表として来ましたが、私は愛護会のメンバーでもあり、市民として報告や感想を言いたいと思います。

市民農園の話がありましたが、農業を取り巻く環境が非常に厳しいことと言うと、ウクライナ情勢をはじめ、円安もあり、チッ素等の肥料の価格が非常に上がっています。6月からJ A横浜管内は、平均30パーセントの肥料価格の増です。尿素に限っては90パーセントです。これは大変です。

ですから、先ほど市民農園だ、農業だという話がありましたが、営む皆さんにとっては今のこの状態で本当に死活問題だということを改めて認識いただきたいです。

緑を守ることに非常に感銘を受けていて、当然やっていかなければならない話だと思います。相続の話など課題もあるでしょうが。ただ緑を守るというだけでは意味がなく管理ができなければ何の意味もありません。

山林を崩して開発をして住宅街になれば、元には絶対戻せません。私は飯島市民の森の愛護会のメンバーです。地域の町内会長とも相談しながらメンバーを募り、大体40名がこの市民の森の維持管理をしています。樹木の伐採についてもずっと見ていました。本当によくやってくれました。大変助かりました。

ただ、やはり伐採伐根だけが管理ではありません。

下草がきちんと整備されなければいけません。市民の森に遊びに来る人たちも当然います。うちで言うと、トイレがありません。「男性なのだから、その辺ですませろ」というのもとんでもない話です。近所のコンビニも「トイレを貸してください」と言われて困ってしまっています。整備も非常に大切なことで、これは要望です。

瀬上市民の森の管理も一時していたことがありますが、やはり地元の皆さん、町内、自治会、人を集めることは大変厳しいです。ただ草刈りではありません。いわゆる刈払機を使うため、初めてなのでケガをさせてはいけないとか、素人にこんなことをさせてはいけないという思いの中でやっています。

農業も人不足がありますが、森の維持管理の面でも非常に人不足です。最近消防団も無理やり入れて一緒にやっています。手当はなかなか難しいのですが、そういうことも課題かなと思っています。

市民の森について、今、下草がどうのという話をしました。更にもう一つ問題があります。横浜市内の有害鳥獣が非常に問題になっています。アライグマ、ハクビシン、クリハラリスです。有害鳥獣はゼロにはなりません、他の自治体と比較して横浜市は大変恵まれており、市から手当をしてくれているので、農家の皆さんは大変喜んでいます。

今、どこの山を見ても里山というくくりではありません。有害鳥獣の巣窟になってしまっています。そういう意味でも、やはり下草をきちんと整備して人が歩けるような環境をつくっていかないと、ますます増えるだろうと思います。

今、クリハラリスは県下で 3,000 頭を超えています。花芽から何から食いあさっています。年間 2 回交配するのでどんどん増えてしまいます。今後は有害鳥獣のことも課題かと思っています。

(進士座長)

チップターの貸し出しなど色々気配りはしていますが、トイレの話などは確かにそうです。ボランティアでやっていて、周りに店も公衆トイレもありません。意外と一番大事なポイントです。「みどりアップ計画でなぜトイレをやるのか」と言うかもしれませんが、活動する人のためにはそれが大事なわけです。

以前、神戸市が「市民トイレ」をやりました。確かポートアイランドの博覧会するときです。公衆トイレはないけれど、神戸に来た人はトイレに行きたくなると、喫茶店やコンビニのようなところでみんな借りられました。年間管理費幾らかを市が助成したのです。「市民トイレ」というマークを入れて、そこには観光客も来ていいというふうにしました。環境の一部ですから、ちょっと考えてください。

時間が無くなってきたので回答はなしにします。すみません。続いて国吉さん。

	<p>(国吉委員)</p> <p>コロナ禍で市民参加が非常に増えて注目されたり、緑が注目されたりしています。今まで使っていたほかの時間に余裕ができたということで、余計に緑が注目されてきているのではないかと思います。</p> <p>私自身も横浜市に住んでちょうど 30 年ぐらいです。最初、都内から越してきました。「緑が多いな」という印象が非常に大きく、子供を遊ばせるにも公園があり、新鮮な野菜を買うことができました。もちろん、都内から来たということもあったかもしれませんが、他県にはなく、非常に印象的です。</p> <p>今もそれが維持されているというのは、やはりみどり税の大きな効果が続いているのかなと思いました。</p> <p>実績の農地縁辺部への植栽にあるヒマワリの写真が目にとまりました。ここの実績数が非常に多いので、どうして増えたのか知りたいと思いました。誰が「これをやっ払いこう」と働きかけて、みどり税から出していったのか、こういう結果になったのかを知ることが、今後の私たちの広報の一つのポイントになってくるのではないかと思います。</p>
	<p>(事務局)</p> <p>これは農景観を保全する事業です。市民が横浜で散歩するときに、四季折々の農景観を楽しんでもらうということで、地元の水利組合や土地改良区、農業専用地区協議会などの団体に奨励金を出しています。</p> <p>地元の団体も、なかなか集まる機会がなかったのですが、この取組をきっかけに意義を感じて活動を再開した団体もあります。</p> <p>また、活動してきれいにするにより、不法投棄などしにくくなるといったこともあります。取りまとめは本庁でやっていますが、農政事務所職員が地域の農業者団体と調整する中で、地元の農業者たちが中心となり、各地域でこういった取組を進めてもらっています。</p>
	<p>(国吉委員)</p> <p>市民農園の開設支援、農園付公園の整備は、あまり実績が出ていません。広報不足だったのでしょうか。</p> <p>あるいは、私も園芸をしていますが、育て方が分からないということがあります。やってみたいけれど、どうしたらいいか分からないところがひとつ問題なのかなというのがあります。専門家や農家などの指導員の育成もセットにしながらの農地の貸出をしていくと、今後、推進する手立てになるのではないのでしょうか。</p> <p>今は Y o u T u b e でも何でもありますが、1 人ひとりの農家の育て方の知恵をリアルに知りたい人が非常に多いと思います。農家や専門家の直接の指導があると、この実績も上がっていくのかなと思いました。</p> <p>森で最近気になっているのは、スズメバチの巣が非常に多いようです。森でも公園でも「スズメバチの巣</p>

があります。危険です」と書いてあります。私たちはそこを避けて通るしかなく、慌てて逃げます。

今はまだ大丈夫ですが、8月、9月になってスズメバチが非常に活発化するまでにどうにかならないかと思っています。

緑化フェアで、春のバラやチューリップなど、私たちの園芸仲間たちも「横浜はすごいね」と言って、評価がとても高かった気がします。今後、非常に大きな国際園芸博覧会があります。私もタイや北京にも行ったりしました。行政だけではあそこまでの規模のものにはなかなかできません。やはりどこに行っても市民ボランティアの働きがあります。ちょっとした雑草を取ったり、水をまいたりして活躍している様子を見ます。

あとわずか4年ですが、そういったところでどうやって市民たちを先導して「一緒にやろう」と持っているのかが大きな課題になるのかなと感じています。

もちろん、市民だけではなく横浜の大企業や中小企業、色々な人々の連携により成功に持っていくのかなという気がします。是非その辺で広報としての色々な活動ができたらと考えています。

(進士座長)

岩本さんどうぞ。

(岩本委員)

私も子供の頃からずっと森に関わってきています。前は木も何万、何十万で売れたものが、今はそういうこともありません。市民の皆さんに森に来てもらいたいし、安心安全で快適な市民の森にしてもらいたいです。孫子の代までこの森を守っていこうということで私たちも活動しています。

自治会役員や老人会員など、地域の人々に大勢関わってもらって楽しんで活動しています。コロナ禍のせいもあるのか、市民の森のマップをみんな持って来てくれています。区役所でもYouTubeで配信しています。また秋にはJAでもYouTubeで配信してくれる予定です。

森はそのまま放置しておくとならなくなってしまっているので、維持管理ということでこれからは予算を組んでもらいたいと思います。

実績の「街路樹による良好な景観」で、私たちの市民の森の周りにも緑地保全地区や源流の森などが何十ヘクタールもあります。歩道等にも枯れ葉が落ちたり、土砂が流れたりします。先日、土木事務所をお願いして掃除してもらいました。まだまだこれからもそういう管理が続きます。

また、街路樹等も春と秋の年2回管理したいと思います。春から夏にかけて、草がぼうぼうです。森に来た人にとってもその草が邪魔です。大勢の人が来ているので、やはりきれいな環境を維持したいです。

川にも土砂がいっぱい詰まっています。ホテルなど

	<p>もこれからたくさん出てきます。ホテルも捕まえて持って行ってしまうと、来年は出なくなってしまう。そういうこともまた一つひとつ市民に理解してもらい、これからは色々な森をより良くしていきたいと思えます。</p>
(進士座長)	<p>続いて今関さん。</p>
(今関委員)	<p>水田保全承認面積は 2021 年度の実績と 3 か年の実績が同じなのですが、3 年かけて達成できたということでしょうか。</p>
(事務局)	<p>5 年後に 125 ヘクタールにするために、毎年増やし続けています。2021 年度は目標 125 ヘクタールに対し 112.2 ヘクタールまでいきました。</p>
(今関委員)	<p>積み重ねた 3 年分がこの値になったと理解していいですか。一度にはできないことが分かりました。</p> <p>実績をしっかりと読んで分かったのは、年に 2、3 か所、みどり税を使い、地域の少し大きな緑化活動に募集をかけて補助金を出すようになっていますが、広さが「1 ヘクタール以上」とか決まっているのですか。</p> <p>私はみどりの推進団体に属しています。小さいところでもいいから、自分の家の近くの空き地で、草ぼうぼうよりは緑を増やそう、花を増やしたいということで、30 年活動してきています。</p> <p>長いこと活動していると行政と緑の協会がやっていることが重なってきています。昔は緑の協会で記念樹も出していましたが、今は行政が行っているの、協会としては活動を止めました。</p> <p>緑の協会の「花やぐまち事業」で、うちの場合は小さいですから 10 平米で花壇を出していましたが、それも今年から募集をやめました。30 年やっていると、そういう花壇をつくる空き地がもうなくなってきているのです。花が好きな人が活動しようとグループをつくっても場所がありません。公園に花を植えようとしたら、公園を管理している人に怒られました。</p> <p>私は愛護会長もしています。20 年ぐらい前は公園に花壇ができず、花を植えられませんでした。</p> <p>緑を増やすのは大変です。減らさないようにすることです。ただし、維持管理が大変なので、地域の協力を得ながら何とかやる方法がないかというのが正直な悩みです</p>
(事務局)	<p>地域緑のまちづくりの面積要件は取り払っています。公園の活動についても条件を満たせば助成の対象になります。個別に相談してもらえればと思います。</p>
(進士座長)	<p>個別授業をしてくださいね。池邊先生どうぞ。</p>

(池邊委員)

「横浜市は、バラで都市のブランディングに成功したところだ」と言って、色々なところに宣伝しています。フェアを中心として、平沼橋にある横浜イングリッシュガーデンに至っては、色々な格好をした人たちがみんな写真を撮りに来ます。平沼橋のバラ園のつくり方は、今までのバラ園のつくり方やイメージを大きく変えました。そういう意味で、今回の横浜のバラというのはすごく効いたと思います。

私は都市計画審議会で色々な土地利用のことを話しています。そこに緑のことはなかなか出てきません。

仙台市が今度、都市緑化フェアを予定しています。都市計画の審議会の中でも、総合計画で「グリーンストシティ」を目指すということで位置付けています。

国交省でやっている「緑の都市賞」で、北海道の恵庭市の「ガーデンシティ恵庭」が今回、賞を取りました。

やはり横浜はもうそれだけのものを備えていると思います。国際園芸博会はただ関係者だけがなくて市民が見に行くのではなく、世界に向けて横浜市民が何を発信していくかを考えてもらいたいです。それに対してまだSDGsもCSRもあります。企業がどういうふうに参加していくかを考えてもらいたいです。

特別緑地保全地区にどんどん指定してもらっていて、特に維持管理の支援などは、なかなかほかのところではできないことをやっているのすごくいいと思います。

コロナで変わったことは、今まで緑や公園についてあまり気にしなかった人が森や緑のある公園に行ったり、見たりするようになりました。特別緑地保全地区があったときに「きれいだな」と思ったり、買取用地もきれいだと買い取る価値があるということで、市民に伝わる気がしますので、維持管理に手厚くできないかと思いました。

今、私は農村振興局の新しい政策についてやっています。岸田政権のデジタル田園都市国家構想にも載っています。今年度から農村プロデューサーも入ってくるので大分変わってくるのかなと思います。借地みたいなところで、都市の人たちが行って、農業や放牧みたいなものもやろうというのが農村振興局です。荒廃農地をまずは放牧して雑木をきれいにして、それから農地にしようということを実際、考えています。

今までは「農村には市民は入りにくい」と言われていました。それを農村プロデューサーが入って都市の人や若い人が農村に入っていくやすい形を考えています。是非それとリンクして、横浜市がそのモデルになるといいです。農村振興局が考えているのは、農地がいっぱいあるけれど、人がいないところを想定しています。横浜は市民が農地に行くのにすごく近いわけです。そういうモデルを横浜でやってもらいたいです。

す。

農園付公園の整備もいいですが、農園が美しいかどうか非常に問題になります。エディブルガーデンでもいいですが、やはり市民農園でみんながブルーシートやカラス避けを使うと、せっかくの公園の景観がかえって汚くなるのが今までの例です。農園というふうに考えるのか、コミュニティガーデンとしてエディブルガーデンを入れるようなことを考えるのかということです。

今関委員が言ったように、美しくしようと思っても、公園にもうやる場所がないというなら、そういうことができるようにしてもらいたいです。

街路樹については、色々な都市で計画更新を進めています。進士先生たちの頃は、開発に対して緑をどんどん植えていました。その植わった木が根上がりしたり、倒木になったり、色々な問題があります。街路樹をいかに計画更新していくか、みどり税のところでもそのお金を考えてもらいたいです。

地域緑のまちづくりでは、写真にあるように桜の下に花壇になっているのは、人によっては「えっ、この下は緑ではないのか」と思います。でも、これもありだと私は思います。今まで緑というと灌木や樹木があったりして、花は関係ありませんでした。園芸と造園というのが全く分かれていたわけです。今度は国際園芸博覧会があるので、是非その辺の領域を取り払ってもらいたいです。私は、国道についてはもうオオムラサキやアベリアは植えなくてもいいというふうに、26年ぶりに緑化指針を変えました。グランドカバープランツやアガパンサスなど、花ものでいいというふうに変えました。

街路樹の根元を変えると、すごく管理コストが低減します。灌木がないので、一度に掃除器でバツと吸ってしまえば落葉も木も、ごみは全部取れます。

園庭芝生化は、皆さん一生懸命やっています。鳥取が芝生の産地です。芝生のロールのようなものを貸し出したりもしています。1回そういうものを体験してもらい、小さい子供が本物の芝生の上で寝転がって空を見たらどんなに気持ちがいいかということで、芝生ロールの貸出しにお金を出してもいいのかなと思います。

校長先生やPTAが難色を示すこともあるので、芝生プラス花みたいな多様な形のものに少し変えてもいいのではないかと思います。

みどりアップ計画はみどり税を取っているのですから、都市計画に出て当然です。緑や花のことがもっと表に出て当然なので、是非、国際園芸博覧会に向けて、世界に向けた横浜をアピールできるような政策としてやっていただければと思います。

(進士座長)

池島先生どうぞ。

	<p>(池島委員)</p> <p>3か年でよく進んでいると思いますので、引き続き取り組んでもらえればと思います。</p> <p>今回は、過去の実績をどう評価するかの確認だと思います。ちょうどこの今の計画が2023年までです。2024年以降のことを見越して発言したいと思います。</p> <p>今日の進捗状況でもやはり数値目標が出て、それに対して何件とか、面積がどれぐらいなのかというような対応関係をつくらざるを得ないと思いますが、定量的なもの以外にも意義のある取り組みもあると進士先生はおっしゃっていました。こうした目標の数字をつくるほうも大変だと思います。数値目標こだわらず、どういうことをすれば市としての緑が増えるのか、増えたことによる市民への影響がどこにあるかなどを少しイメージしながら評価できるような仕組みを、今後検討していても、市民にとっては分かりやすいのではないかと思います。イベントの実施件数が9件で、当初目標が10件だったのに足りてない…というのが、評価の差になるのは変だと思います。もちろん目標通り10回できればいいのですが、9回しかできなかったから効果がないのか…と言われればそうではなく、効果はあると思います。そういったところで今後、評価が考えられる仕組みをつくってはどうかと思います。</p> <p>もう一つは総予算の関係で、このみどり税が通常の事業費の補填のように扱われている仕組みなので、難しい部分もあるのかもしれないけれども、全体としては、森に関する予算配分が多いような印象を受けています。買取りのところでどうしてもお金がかかってくるのかなという気はしています。それ自体が悪いというわけではありませんが、例えば農地のところでも、もともと相続が難しいときに市として買い取る制度が通常でもあると思います。そういうところに予算を措置して、農家の土地をボランティアが耕すなど。それが難しいのであれば、表現は難しいですが、農地や空き地を買い取って市民が使える形を今後考えられるかと思いました。この仕組みに関しては来年すぐというわけにいかないなので、2年3年かけて仕組みを検討できる時間があってもいいと思いました。</p> <p>(進士座長)</p> <p>網代さんお願いします。</p> <p>(網代委員)</p> <p>計画についての進捗状況で、このように写真を入れてデータもしっかり付けて、分かりやすく本当に有り難いと思います。全体的に十分、達成してもらっていると思います。</p> <p>柱1について、「森づくりを担う人材の育成」では、子供まで参加してもらい、一生懸命やってもらっています。また、「森の楽しみづくり」でも子供向けに改めてやってもらっています。私は人材の育成と同時に、</p>
--	--

その人々にもやはり森を楽しむことを併せてやってもらうことで、人材の1人として考えてもらうということでもいいのではないかと思います。

「ここに森がある」というのは、大体皆さん知ってはいると思います。「森の楽しみづくり」という改まったことも大事ですが、「ここに立ち入っていい」ということや、散策の楽しさや森の素晴らしさをもっとPRすべきではないかと思います。そして、多くの人々が自然に森と親しんでくれればよいと感じました。

柱2の「市民が身近に農を感じる」では、まず数多くの施策を行っていただき、農に親しむ機会をつくってもらっていることは素晴らしいと思います。子供から大人、企業の皆さんがということで素晴らしいです。特に次代を担ってもらう子供に土のぬくもり・感触、野菜や米の成長する姿、収穫の喜びを感じてもらえるよう、農体験の機会づくりを一層進めてもらいたいです。私たちも地元でそれを進めていきたいです。

農業が私たちに新鮮でおいしい食料を提供してくれていることをやはり感じるべきだろうと思います。そして、多くの人にもそのことを感じてほしいです。農業の大切さも皆さんに御理解いただき、農家への感謝の気持ちも醸成していかなければいけないかなと思います。農業に携わっている皆さんは本当に苦労しています。そういう方々にやる気を持ってもらい、新たに「自分もやろうか」と思ってくれる方も生まれてくるのではないかと感じています。

(進士座長)

最後に内海さんからお願いします。

(内海副座長)

コロナの問題もあり、当初の段階から少し変わりましたが、昨年度の達成目標は比較的良好に実現できているのかなど、全般的に感じました。やはり数値目標の達成の話だけでなく、「農を感じる」ことからすると、新しい認識が少しできたとか、定着するきっかけになったというようなことも含め、定性的な評価も少し入れ込んだほうがいいのかと感じたところです。

都市計画審議会でも、もっと農地や緑地の話も議題に据えた議論をしてもらおうというのは前からあります。なかなかそれが定着しませんでした。

今回、建築局で「住生活基本計画」も第7次の改定作業が進んでいます。その中で、農地や緑地を利活用した住まい方がかなり明確に入りました。横浜は島状に調整区域もあり、まとまった農地や緑地も比較的身近にあります。市街地の中にも農地が比較的残っていて、そういう都市のつくられ方がされてきています。まとまった森だけではなく、市街地の中にあるふれあい樹林地も小規模な緑地として地域の皆さんがふれあえるような施策が、これからはもう少し出てくるのかなと思います。

今回この評価を見ながら、施策として拠点的などこ

るを確保しつつ、身近な農地や緑地が本当に日常的に活用できるようなことが、かなり拡充した段階に入っているのかなというのを、一番感じました。「多様な主体による農地の利用促進」も、従来の農政では、農家に対する施策にかなり軸足がありました。少しずつ市民サイドに展開した施策が拡充はしてきています。農家の後継者がなかなかいないといったことから遊休農地が増えています。農家が使う農地として復元支援するだけでなく、農福連携ではないですが、社福法人やNPOなどもあります。最近では、横浜市内で自治会が自ら認定菜園を整備し、利用者を募集して、そのお金で町内会費の引き下げをはかったところも出てきました。ある意味すごく活気的なことも行われ始めています。従来の市民農園や栽培収穫体験農園だけでなく、市民ニーズに合わせてバリエーションを展開していくところが、今回の評価の延長線上であるのかなと感じたところです。

(進士座長)

皆さん、ありがとうございました。

議題2に入ります。骨子案ができていますので、基本的には内容がこれで良いかを議決しておかなければいけません。骨子案の説明と今後のスケジュールを併せて、事務局説明をお願いします。

(事務局)

(事務局説明)

(進士座長)

おおむね骨子案は昨年と同じです。中間報告なので3か年報告も入れます。いいですね。ありがとうございます。

大分時間を超過してすみませんでした。ただ、市民推進会議の本質はここにあると思ってください。今後はこの骨子案について、部会でまた評価します。

目標はおおむねクリアしています。ただ、目標の設定と現実の違いはあります。数値目標を達成しているから必ずしもいいか、達成していないから駄目かではないわけです。あまり堅いことを言わずに、トータルで見たいです。

今日の報告は、森も農の問題も都市の問題も、大体10個ぐらいに分かれています。

担当者もいるのでこういう分け方になると思いますが、少し横断的に事業をつなげていけたらと思います。種をまいて育てて食べるまでいくといったようなことです。

柱2の事業報告にあった、ヒマワリは格好いいでしょう。ただ、農地の縁辺部周辺というのと、農地が汚くて周りだけ花を植えるように誤解されますが、そうではありません。

瀬谷で今度、国際園芸博覧会をやります。会場だけを整備しても駄目です。世界中から人が来るわけで、会場だけ美しいのはみっともないです。今から考える

	<p>と、むしろ農地のほうが主人公になるかもしれません。農地は農地側からだけ物を見るのではなく、全体で見ないといけません。そういう意味では、国際園芸博覧会を開催する横浜がトータルに見られるわけです。みどりアップ計画そのものでやっていることの意義が問われます。</p> <p>それぞれ縦割ではなく、地元でしっかり頑張っ、市民も一緒になってやってもらいたいです。これこそ環境先進都市です。みどり税ですごいモデルをやっているまちだということアピールしていきましょう。</p> <p>本当にありがとうございました。こんなにたくさんの意見がもらえたので、事務局も心強いと思います。</p> <p>(事務局)</p> <p>長時間、熱心に議論し、意見をありがとうございました。大体、評価してもらえたということだと思いますが、色々なところでまだ課題や意見があります。特に質や維持管理が今後は重要になってくるというのが強く印象に残っています。</p> <p>今期の計画はあと2年になります。いただいた意見を参考にしながら進めていきたいので、引き続きよろしくをお願いします。</p> <p>(進士座長)</p> <p>では、これで終わります。</p>
資 料	<p>次第</p> <p>資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議2021年度報告書骨子案</p> <p>資料2 横浜みどりアップ計画市民推進会議2021年度スケジュール</p> <p>別紙1 横浜みどりアップ計画[2019-2023]2021年度事業目標及び進捗状況</p>